

「むぎが美人」にむけたた士台づくり

高品質果実生産にむけた樹園地改良計画

佐賀県果樹試験場 常緑果樹研究担当 貝原洋平

品質がなかなか向上しない

外周部から水が浸入する

防風樹との境が不鮮明

地面への日当たりが悪い

樹が邪魔で作業効率が悪い

未収益期間が心配でなかなか改植ができない

作業道の整備を考えている

これを読んで園地に向かう!!

一月に入り寒さも本格化してきますが、次年度の果実生産へ向け、冬場の管理にも計画的、積極的に取り組んでいきましょう。

冬場の管理としては、有機物施用などの土作りが重要な管理作業となりますが、この時期は園地条件の改良を行う絶好の機会でもあります。

園地の状態を良く観察して、高品質果実生産への適正な園地作りにも合わせて取り組みましょう。

園地の生産状況の診断

果実生産を左右する園地条件として、園地の向きや傾斜、日当たり、水はけといったことがあげられますが、既存の園地を動かすことはできないので、その制限の中での対応となります。

そこで重要となるのが、まず現在

の園地での果実生産の状況を診断することです。

例えば、マルチ栽培で適切な管理を行っているにもかかわらず、連年品質向上効果が劣るといった園地では、多少の園地改良を行っても大幅な果実生産の改善はあまり期待できず、中晩生カンキツへの品種更新といった対応がより適切な対応と考えられます。

園地の状況を診断して、その園地に適した園地の改良方法を検討しましょう。

園地の改良に当たっては、排水路の整備などによる園地条件とともに密植園では間伐などによる栽培条件の改良をうまく組み合わせ、高品質果実生産に適した園地への改良をはかっていきましょう。

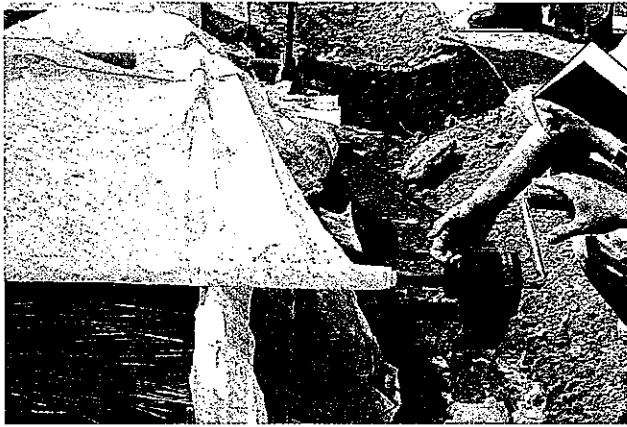
園地条件の改良

マルチ栽培では、マルチの被覆時期や被覆時の土壌水分の状態などが品質向上効果を左右するため、園地内での乾燥条件にバラツキのある状態では適切な栽培管理を行っても、樹による効果にバラツキが生じてしまいます。

特に園地の外周部で降雨の浸入しやすい箇所や水が停滞するような箇所にある樹は、同様なマルチ被覆を行っていても品質向上効果が劣ってしまいます(第一図)。

土壌の乾燥促進や排水性を向上させるための溝切りを行う際には、園全体の水の流れなどを考慮して、適切に余剰水が園外へ排除できるようにしてください。

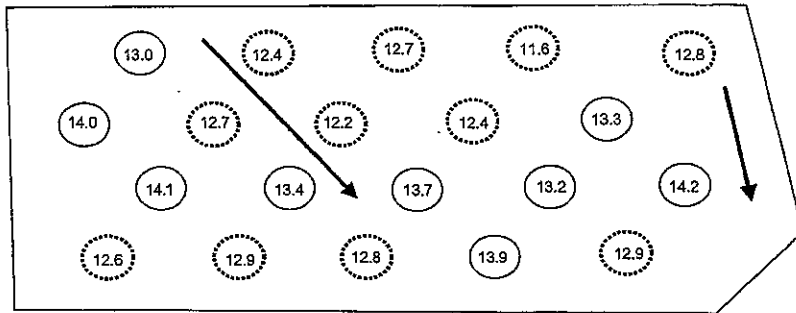
また、溝切りで生じた土は、樹冠



開閉式マルチも視野に入れて間伐を行ってください

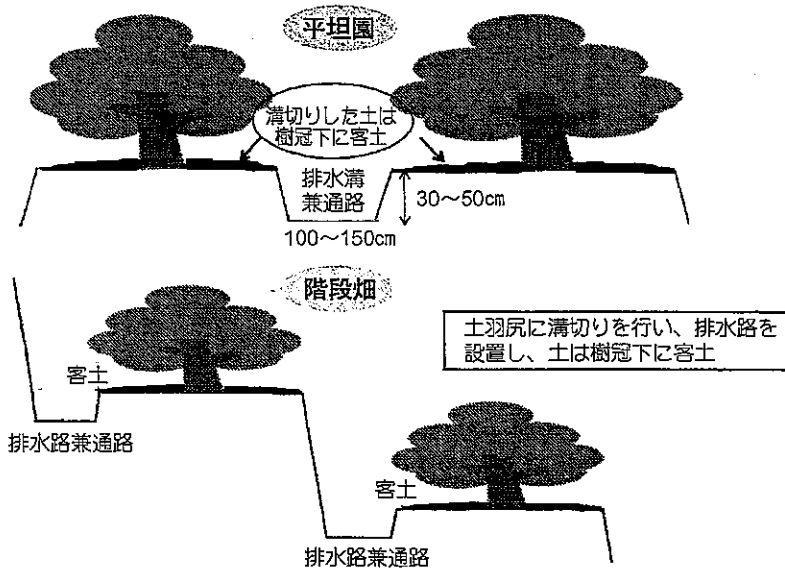


間伐でマルチ被覆も楽々作業！



第1図 マルチ栽培園地における樹による果実糖度のバラツキ(園平均13.0度)
(品種は大津四号、図中の矢印は傾斜の向き、点線の樹は園平均糖度未満の樹)

下に客土して畝立てすることで排水がよりスムーズとなります(第二図)。園地の日照条件も品質向上に大きく関わってきます。特に防風樹と隣接するような樹は日照不足となりやすいため、ミカン樹への日照を確保するように防風樹の管理を行ってください。



第2図 平坦園、階段畑における溝切りの方法

栽培条件の改良

◆密植の弊害

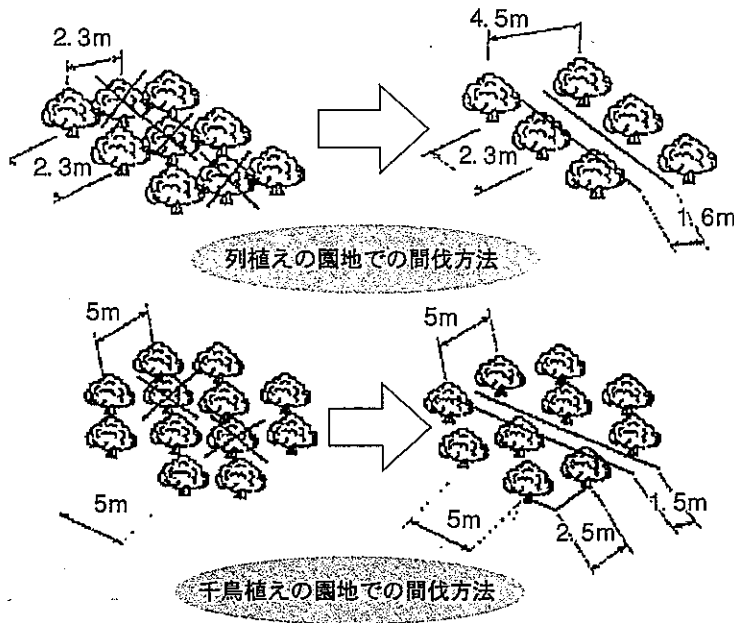
栽培条件で問題となるのは園地の密植程度です。密植の弊害は、土壌面への日照不足による土壌乾燥の抑制や隔年結果

の助長、果実品質への悪影響のみでなく、病害虫防除の点からも薬液の付着率などでマイナスとなっています。また、園地の作業性も悪くなり、様々な管理作業で苦勞することが多くなってくると思います。そのため、先に述べた園地条件の改良がうまくできても、密植状態の園地ではその効果は十分に発揮されません。

間伐による栽培条件の改良

高品質果生産の園地の栽培条件として、樹が独立樹であることが基本となります。

密植状態を改善し、一樹一樹を独立樹とするためには間伐が必要ですが、植栽本数の減少に伴う単収の低下などを心配される方も多いと思います。しかし、密植時と比較して間伐後には、生果率の向上から実際の出荷量としては増加することが十分期待できます。また、植栽状況などにより、間伐することで極



第3図 作業道の設置を考慮した間伐樹の選定方法

端な単収低下が予想され、縮伐での対応を考えられる場合もあると思います。

しかし、密植状態が問題となるような園地は、結果として地上部の生育が旺盛な園地が多いと思われる、そのような園地は樹冠拡大に伴い再び密植状態となりやすいですので、縮伐は緊急的な対応としておき、恒久

的には間伐での対応とするようにしてください。

また、特に品種が高糖系温州の場合、切除部からの徒長枝の伸長などによる果実生産への弊害が発生しやすいと考えられ、密植園の改善には間伐による対応をとるようにしてください。

密植状態の改善により管理作業が軽労化する効果も得られますが、間伐樹の選定時に作業道の設置を考慮すること

で、より作業性の向上をはかることができます(図三)。

また、千鳥植えの園地では、列植えの園地となるように間伐樹を選定することで、後のマルチ被覆等の作業性を向上させることも可能です。

改植による栽培条件の改良

樹が老齢化している密植園やマルチ栽培の効果が連年劣るような園地は、先に述べた改良を適切に行っても効果が十分に発揮されないことが考えられます。

そういった園地では、改植を検討することも必要です。改植に当たっては、園地条件に適した栽培品種の選定とともに植付けまでの計画を立てて、未収益期間を短縮するために苗木を育苗しておくなどの準備をしっかりと行った上で、実施するようにしてください。

◇ ◇ ◇

以上、高品質果実生産へ向けての樹園地の改良方法について述べました。

最初に記したように、まずは園地の果実生産の状態を的確に把握し、適切な樹園地の改良計画を立てて作業に取り組んでいくことが重要です。

排水路の整備等は重労働となりますし、間縮伐の実施は果実生産へ直接的に影響してきます。

行った作業の効果が最大限に発揮されるように、十分検討しながら取り組んでいきましょう。

改植による栽培条件の改良

樹が老齢化している密植園やマルチ栽培の効果が連年劣るような園地は、先に述べた改良を適切に行っても効果が十分に